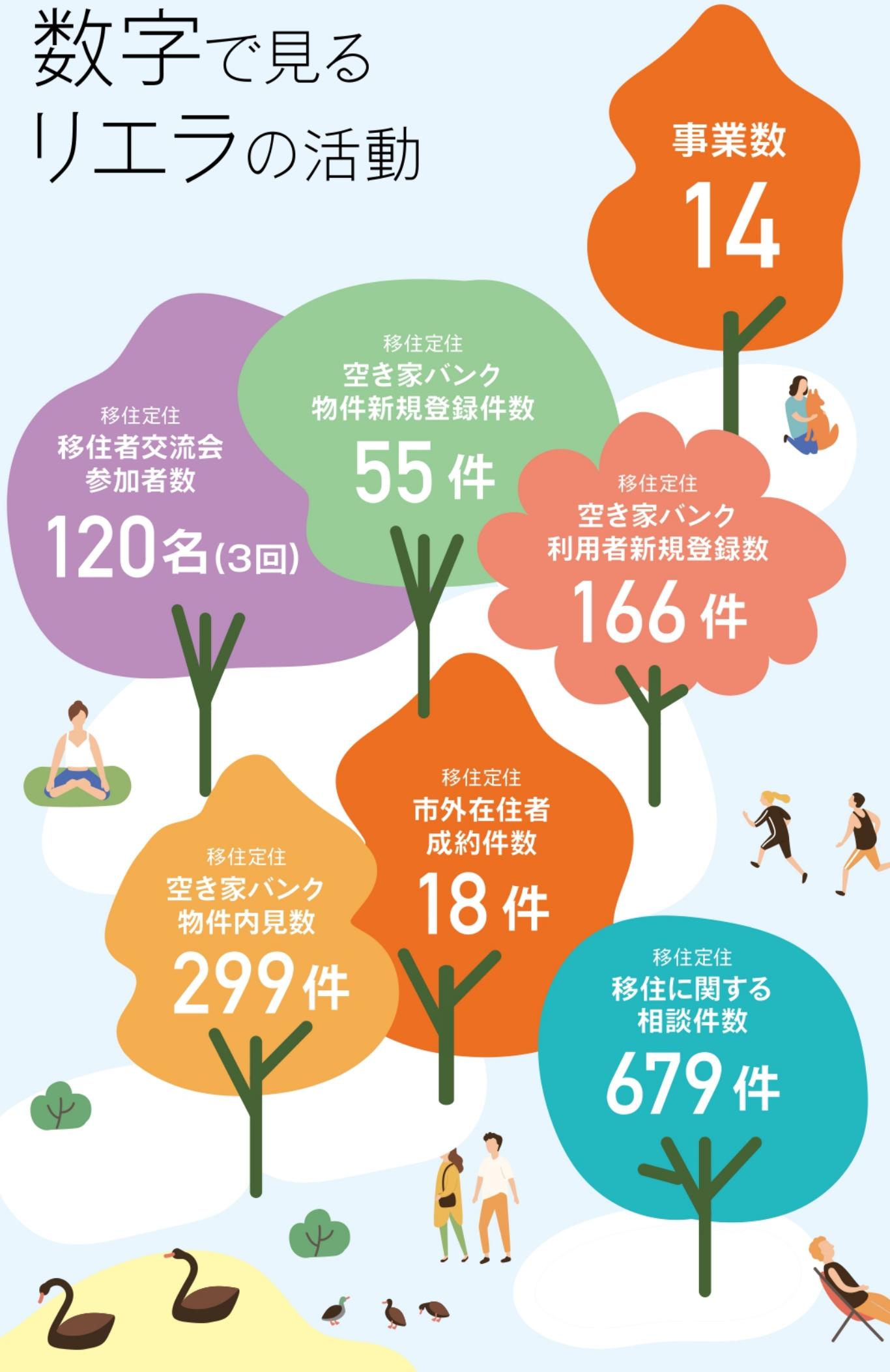


数字で見る リエラの活動



代表理事
松永謙矢

リエラの立ち上げ以降、国内の自然災害における被災者支援を行ってきましたが、戦争という経験した年となりました。昨年の4月10日、ウクライナから避難者6名が日田市に到着し、既に日本で2回目の誕生日を迎えています。支援にあたっては、生活するために必要な食料や家電等の物資、就学、就労、日本語学習などの生活課題が多くありました。支援にあたっては、会員及び支援者の皆さんに支えていただきました。改めて感謝申し上げます。大分県内で被害をもたらした台風14号など、自然災害も多発し、近年で災害がない年は記憶にありません。「まさか」から「またか」の災害多発時代となつているため、くれぐれもご自愛ください。



Thank you
for
your coorprations!



ウクライナ人道支援活動

2022年2月ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まり、日田市では4月に避難者6名を受け入れました。私たちは日田市より相談があり避難者の受け入れから日常的な相談相手となりサポートを行っています。

大分県内には別府市を中心に30人以上がウクライナから避難して来ており、別府市の避難者と交流会も行いました。

さらに、就職活動や就労支援として日本のビジネスマナーを学ぶ講座を開催したところ、参加した避難者はウクライナにはない日本文化を習得しようとメモを取りながらたくさん質問をしたり意欲的でした。



ウクライナでネイリストだった方は避難して
来てからもネイルの仕事をしています

たくさん寄せられた生活用品や寄付金で
購入したものを持ち運搬

孤立防止のため地域住民と
料理をしながら交流会

大分県内の避難者を
対象にビジネスマナー
講座を実施



Comment from
青木信也
さん
日田市総務部総務課
総括

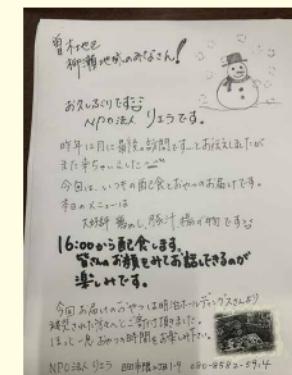
日田でのウクライナ人道支援活動から一年が経ちました。これまで、支援団体による募金活動をはじめ、多くの方から様々なご厚情をいただきました。できることで、できる限りの支援を行つてきましたが、避難者ご家族は、一刻も早い帰国を願っています。今後も引き続き、支援団体からの力強いご協力のもと、サポートしていく所存です。

台風14号湯平・延岡災害支援

2022年9月に発生した台風14号により由布市と隣県の宮崎県延岡市で被害が出ました。由布市は由布市社協に資機材の貸出し支援を行いました。延岡市では五ヶ瀬川の氾濫で床上浸水の被害が多く、10月より資機材の貸出しや配食支援で住民さんから被災後の困りごとを調査しました。

＜効果・課題＞

被災者の困りごとを地元の関係機関と共有できると切れ目のない支援につながったと感じました。



チラシを作って
配食の時に
配布していました
@宮崎県延岡市



ボランティアの方と
現地で炊き出し
@宮崎県延岡市

資機材の貸し出し要請に対し迅速に対応してくださり、施設の早期開業再開や家屋の被害拡大を防ぐことができました。また、現地で他支援団体への対応や、支援完了の見極めなど専門的なアドバイスは、大きな支えとなりました。今後も、被災の方々に必要な支援や情報提供などができるよう、共に取り組んでいけることを期待します。



Comment from
由布市社会福祉協議会

半澤友樹さん

令和2年7月豪雨災害支援

みなしひ設住宅入居者の訪問を通して見守り支援を行ってきました。2年間というみなしひ設住宅の入居期限が切れ、入居者それぞれの再建が完了しました。



みなしひ設住宅から
引越しのお手伝いをしました

Comment from
青木信也
さん
日田市総務部総務課
総括

日田でのウクライナ人道支援活動から一年が経ちました。これまで、支援団体による募金活動をはじめ、多くの方から様々なご厚情をいただきました。できることで、できる限りの支援を行つてきましたが、避難者ご家族は、一刻も早い帰国を願っています。今後も引き続き、支援団体からの力強いご協力のもと、サポートしていく所存です。

大分県防災士キャリアアップ研修

(大分県委託事業)



2022年度は「マイタイムラインコーディネート講座」と「要配慮者支援コーディネート講座」を開催し大分県内の防災士が約500名参加しました。マイタイムラインコーディネート講座ではワークで実際にタイムライン作成を行い、要配慮者支援コーディネート講座では先進的な取り組みをしている自治体の事例発表等を行い、防災士が地域で実施・サポートできるよう人材育成に取り組みました。

効果・課題

防災士は年々増加していますが「何をすれば良いかわからない」という声をよく聞きます。
地域内で話し合いが進み、お互いに支え合い自助共助の行動ができると期待します。



グループワークでは活発に意見が出いました
@大分県九重町



地域内共助の取組みとして
地区タイムラインの作成をしました



防災士対象の研修は3年目になりました
@大分県

体験型防災プログラム

(日田市委託事業)

自治会や地区、公民館を中心に日田市内7か所で実施しました。天瀬町丸山自治会は避難所運営訓練を実施。住民が指定避難場所に自宅から避難して、感染症対策の受付から段ボールベッド組立て、非常食体験を行いました。体験を通して参加した住民は「実際の災害時には色々な課題も増える。」と話していました。

効果・課題

地域毎に取り組んでいることから、地域の土地の特徴や住民に沿って
より深く防災・減災について考えることができました。

東西丸山自治会が防災訓練を行うにあたり、体験型防災プログラムの避難所運営訓練を取り入れて、11月20日にB&G体育館で実施しました。初めての取組みで住民がどれだけ参加するか心配しましたが多くの住民が練を行った。訓練を行って、多くの課題も見つかったので今後の活動に活かしていきたいです。



Comment from
天瀬町丸山西自治会
会長
矢幡孝典さん



要配慮者の避難計画を地域住民と作成
@日田市吹上町

個別避難計画に関する支援



(日田市委託事業)

日田市吹上町をモデル地区に、関係団体や福祉専門職の方々を交えて要配慮者個別避難計画を作成しました。勉強会から避難計画書作成をし要配慮者の避難訓練を行いました。実際に避難訓練を行ったことで、それぞれの避難行動を確認し課題が見つかりました。日田市は、この取組みをモデルに、今後、市内の自治会に普及していくことになります。

モデル事業に参加したことでの課題も見えました。今回の経験を次の計画作成に活かせるよう取り組んでいきたいと思いました。モデル事業に参加したことで自身一人ひとり残される事のない、より具体的な個別避難計画の作成につなげることが出来たように思いました。

今回、内閣府個別避難計画作成モデル事業に参加させていただきました。事前の研修や準備の期間も含める半年以上の関わりとなりました。どう進めたらよいか困った時に数回開催された調整会議や本人、家族との計画検討の折、リエラさんより助言を頂き地域の皆様と連携することで、避難訓練などり組立てが出来ました。



Comment from
日田市西部地域包括支援センター
介護支援専門員
石井美和さん

講演会・防災サバイバルキャンプ



資機材を使って泥出しを学ぶ
@愛媛県西予市

防災講演会のカテゴリーの中に防災サバイバルキャンプがあります。これは、慣れない火起こしや調理、ロープワーク、消火訓練等を学びます。大分市の大分中学校1年生が日田市に来て、実際に被災体験者から災害時のことを見聞きし、災害の恐ろしさや避難することの大切さをリアルに感じていました。

効果・課題

講演会や研修を通して災害・防災について学びますが、継続的に実施することで身についていくと考えます。災害から命を守ることを最優先に行動できる人が増えることで防災・減災に繋がります。



避難所で使用する段ボールベッドの組み立て体験



減災シンポジウムでは大学生と高校生による発表をサポートしました @宇佐市



講演会で避難スイッチを自分で決める
タイムライン作成をしました@福岡県久山町



移住相談・体験ツアー

2021年度に引き続き、日田市移住支え合い事業として移住定住支援全般の業務を行なってきました。日々、全国から移住の相談があり、今年度の相談件数は延べ679件。相談内容は多岐に渡り、特に住まいや仕事の相談を多く頂いております。その中で、日田市企業合同説明会を含めた移住体験ツアーや、企業や農家の方々にご協力いただき、一人ひとりのご希望に応じたオーダーメイドツアーを行いました。

また、後継者不足という切実な課題を椎茸生産者の方からご相談を頂きましたので、福岡での移住相談会でのPRや、移住希望者と生産者の方とを繋ぐ活動を行いました。



＜効果・課題＞

体験ツアーを通して移住前に日田の「街」と「人」とに触れ、移住への理想と現実を感じ「不安が軽減された」とのこと、移住体験ツアーやオーダーメイドツアーやは2組中1組が移住、オーダーメイドツアーやは7組中5組が移住へと繋がりました。椎茸生産の後継者に関しては、未だ就農に至っていないため、2023年度も引き続き取り組んでいきます。

オーダーメイドツアーや
椎茸生産者と接見・圃場見学

移住者交流会

移住者交流会の開催をはじめて4年目となります。今年度は8月に三隈川での屋形船交流会、11月は大山町内移住者と地域住民との交流会、12月には移住者交流大運動会を実施しました。終了後のアンケートでは、移住者交流会は必要ですか?の問い合わせに「はい」の回答が毎回100%。その理由として「知り合いが増える」「悩みを相談できる」「日田を知れる」「地域の方と繋がれる」等々。知り合いのいない土地に自力で馴染むことは至難の業。移住者から「いいえ」という声が上がるまで続けていく必要があると感じました。



8月の交流会では日田弁クイズの答えを相談し合うことで交流が深まりました

三隈川での屋形船乗船はちびっこも大喜び

12月大運動会、チームで1つの目標に向かって頑張り一体感が生まれました

Comment from
青山繁和さん
移住者

漠然と、移住したいと思いつつで情報を集め、5月と8月に福岡での移住相談会に参加してリエラさんと出会い、6市町村に相談しましたが一番親身に話してくれました。9月にオーダーメイドツアーや、10月に移住体験ツアーやを活用し日田を体験し、空き家バンクでワクワクする物件を見つかり12月に移住をしました。移住後にリエラさんに仕事を紹介いただき働いています。忙しい職場ですが移住前より充実しています。

空き家バンク

防犯・防災の観点でも問題となっている空き家。その利活用を勧める空き家バンクの取り組みを、昨年度に引き続き不動産業者のご指導・ご協力のもと推進しています。今年度は空き家バンクの利用希望者は年間166名(新規登録数)に対し、空き家バンク登録物件は50軒余りと、相変わらず物件不足は続いている。

活動の中で、入居後に移住者が少しでも地域に溶け込めるよう、空き家バンク登録する前調査時には、所有者と地域の方に自治会費や行事のことなどヒアリングを行い、移住希望者に伝えています。

＜効果・課題＞

これまでのヒアリングを通して、多くの地域人が増えることを望む一方で、少なからず地域外から人が入ることを好まない地域もあることが分かりました。この点についてどのように向き合うべきか?ということを今後の課題とし、引き続き取り組んで参ります。



空き家バンク物件を利用した施設の見学

西部地区合同移住者交流会

(大分県西部振興局委託事業)

日田・九重・玖珠合同の移住者交流会を玖珠町豊後森機関庫公園にて開催しました。アイスブレイクでピザ作りをして焼き上がったピザを見て「わーーー!」と歓声が上がっていました。

近隣の市町に移住してきた人同士が、移住先でどのように暮らしているのか、仕事は何をしているのか等をお互いに話し共感している姿が見られました。



テーブルごとに協力してピザ作り
(ピザ生地はイタリアンの販売をしている移住者から)

居住地の近隣のいろんな方と
話ができ充実した時間を過ごせました

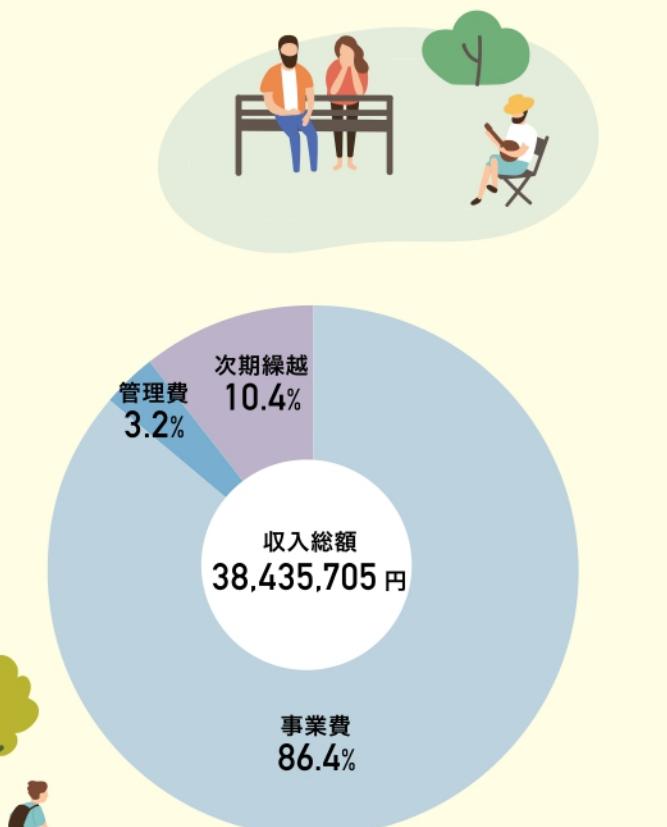
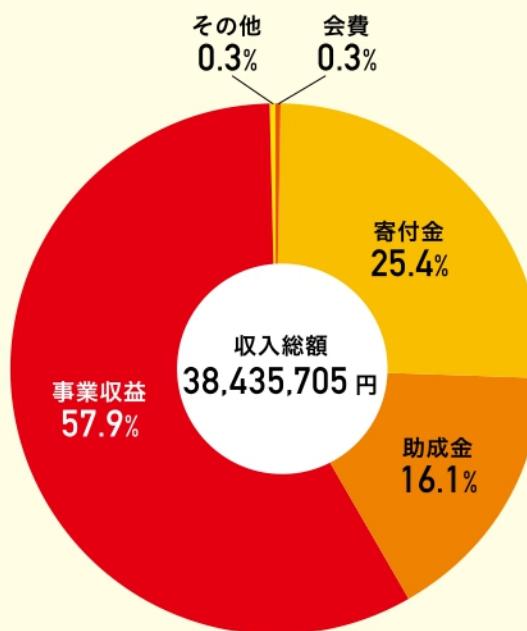
上手にピザが焼けました!

移住定住の促進は県の重要な政策課題のひとつです。令和4年度、県西部では移住者同士の交流を促進するとともに、移住者のお困りごとなど生じた移住者交流会を初めとして企画し、運営全般を経験豊富なりエラに委託して実施しました。10月のまだまだだ日差しが強い中、玖珠町の豊後森機関庫公園の美しい芝生の上にテントを張り、子どもから大人まで41人がリラックスしてた雰囲気で活発な意見交換を行い、成功裏に終えることができました。



Comment from
山口満さん
大分県西部振興局
地域創生部長

収支報告



＼ 今年度リエラの活動をサポートいただきました／

活動助成団体



連携企業・団体



寄付者一覧

ウクライナ人道支援活動に対し、ご寄付・物資提供・サービス提供・募金活動などご協力くださった皆様、多くの温かいご支援に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。寄付者一覧につきましては、この場に書ききれないため別紙に掲載させていただきます。

寄付物資

ご寄付いただいた物資は以下の通りです。この他にもたくさんの物資をお預かりいたしました。記載漏れなどあるかと思いますが、ご容赦ください。

ふとん・座布団・座椅子・座卓・マスク・消毒液・女性用品・爪切り・ハンガーラック・ローテーブル・食料品・日用品・ソファー・鏡・冷蔵庫・テレビ・ゴミ箱・電子レンジ・カップ・皿・衣類・机・椅子・靴・ポケトーク・木工品・お米・自転車・ボール・おもちゃ・飲料水・時計・文房具・教材・エアコン

募金

ウクライナ人道支援

2022年度会員

正会員：個人 23名 賛助会員：個人 2名 寄付者数：229名
団体 3団体 団体 1団体

寄付ご協力のお願い

私たちの活動は、様々な団体・企業からの助成金、一般の方からのご寄付で成り立っています。
ぜひ、私たちの活動にご支援、ご協力をお願い致します。



【寄付口座】ゆうちょ銀行 七二八（ナナニハチ）店 普通預金 2566959

口座名義 トクヒ)リエラ

【ゆうちょ口座間の送金】17200-25669591

口座名義 トクヒ)リエラ



2022年度 NPO法人 リエラ 事業報告書



NPO法人 リエラ



〒877-0044 大分県日田市隈2丁目1-9

T E L ▶080-8582-5914 (代表)

▶090-1452-4110 (移住専用)

E-mail ▶info@re-area.org

H P ▶<https://www.re-area-hita.com/>



Facebook



Instagram



H P



法人設立から 4 年が経過しました。

私たちの事業の 3 本柱である災害支援・防災活動・移住定住促進に取り組む中で、環境や福祉、教育、子育て等多岐に亘り異業種の方から学ぶことがたくさんあります。また、講演会講師や視察研修を大分県内はもとより県外からも多くご依頼頂くようになりました。

そんな中で感じることは、私たちは何のために、誰のために活動をしているのかという目的がブレることなく進んでいかなければいけない、ということです。

人口減少や頻発する災害の現代にあって「平時からお互いに支え合い安心して暮らせる町・人づくり」のために、より一層取り組んで参ります。

今後とも、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

事務局長 河津由美